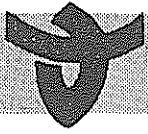


THE KŌHŌ NANKOKU



広報 南国

第 5 4 号

昭和39年 4 月 20 日

編集発行
南 国 市 広 報 委 員 会

事 務 所
高 知 県 南 国 市 役 所 内
(電 2111)

印 刷 川 比 日 刷 株 式 有 限 公 司
(電 2379)



夢を託して

◀暖冬異変▶は農家にとって手痛い試練であった。生産過剰にあえいだ野菜は、早稲作付と、立腐れの時期とあいまって、人畜の飼料どころか、有機物肥料として稲の栄養素となってしまった。

ここ南国市の米どころでは、早稲の作付に、せせせと汗を流し10アールいくらかの収穫を夢みて、田植に余念がない。◀米に生れ、米に生きる▶百姓たちの夢に、幸多かれと祈る。

一日章にて一

れる苗はまるで二番稲のような苗にのびしかも苗イモチ病の発生と泣きたいような現象を呈している。▼か弱い苗での田植えをおわり、やれ一安心と思ったのも束の間、本田に植えられた苗があそこ枯れ補植苗の確保にかけずり廻っている百姓さんもいる。▼いまごろの雨は、むかしから菜種梅雨といわれて多いこともあるが、ここ一、二年、とくに長雨の多いのはどうしたことだろう。



お蔭で稲作も苗代からまともな育ち方ではない。ひか

◀今年よ▶お前もまたか、
といいたくなる今日この頃の天候である。例年春ともなればにぎやかな花見や行楽も、今年には雨にたたられさっぱり。まともに花見をたのしんだ人たちはすくなかったようである。▼ところで三月この方。陽の光りに接したことは数えるほどしかないのは、昨年と同じような長い雨の気配が濃厚とみえる。この雨のために農産物はさっぱり振るわないようだ。暖冬異変として長雨異変とどうも百姓には分らないことばかりが続くものだ。▼